（様式）　　平成２９年度　津山市立中正小学校　学校評価書

校長　内田香代子　印

1　自己評価

I　評価結果

項　目	成果と課題（達成状況）	評定
学力 学習 体力	協同学習による授業改善に取り組んだ。年間をとおして協同学習スーパーバイザーの秋山芳郎先生に、校内研修の算数科では専門的な立場から８月には筑波大学附属小学校の盛山隆雄先生に、１月には明星学園の細水保宏先生に来ていただき、研究授業や公開授業研究会を実施して指導・助言をいただいた。若い職員が増えていく中、子どもたちの学力の定着をめざし、教師の授業力向上に努めた。体力面では、１学期に外遊びの奨励、２学期に持久走運動、３学期に縄跳び運動に取り組んだ。また、年間をとおしてたてわり班活動での「なかよし遊び」を実施し、日常的な体力の向上に努めた。	B
くらし	きまりを守り落ち着いたくらしをするために、「時間を守る」「トイレのスリッパそろえ」「あいさつ」「だまって掃除」等に取り組んだ。また、楽しい学校生活を送るために「３つのつ」（「あいさつ」たいせつ」「あとしまつ」）にも取り組んだ。全体的に落ち着いたくらしができていると考える。学校生活についての児童アンケートの結果も、全ての項目において８０％以上の児童がよく頑張っていると肯定的に答えている。	A
連携	学校支援地域本部事業に取り組んでいる。今年度も保護者や地域の方々に、学習や生活のさまざまな場面で多くの支援をいただいた。音読暗唱等学習成果の公開もできた。子どもたちは充実した学習や文化的な活動や地域の学習など、すばらしい経験をいくつもすることができた。 PTA とも連携して、中学校の各定期テスト期間に合わせてノーメディアの取組や情報教育も実施できた。特にノーメディアの取組では家庭の協力もあり定着してきている。	A

（A：目標を上回っている　B：ほぼ目標どおり　C：目標を下回っている）

II　分析・改善方策

今年度は算数科を中心にして協同学習をすすめてきた。次第にペアー学習やグループ学習ができるようになってきている。全ての児童の基礎的な学力の更なる定着をめざし、今後さらに力をつけていきたい。来年度も、専門的な講師に助言をいただきながら、協同学習を中心に授業力の向上・授業改善に努めたい。

2　学校関係者評価委員会

杉山和之　　重松勝江　　佐々木敦子　　奥　勝美　　神田敬三　　松本浩之　　神谷　寛

3　学校関係者評価

○どの学年も穏やかな雰囲気で、学校全体がとても落ち着いている。子どもたちも素直で、よく挨拶もできる。とても気持ちのよい環境の中で学習ができている。まじめに授業をしている姿なので安心できる。
○これまで継続してきている協同学習の成果が出ていると思う。学習面では、話をする人の方をしっかり見て話が聞けている。大変よく頑張っている。授業参観で子どもたちが互いに自分の考えを出し合い、友だちの考えを聴きながら勉強に取り組んでいる姿が見られた。今後さらに学力の向上をめざしてほしい。
○音読・暗唱大会や音楽集会等の行事を通して学級や学校が１つにまとまっていると感じている。学校で学習したことが地域での生活にも生かされている。今後もこの取組を継続し、みんなで協働する力や主体的な力をさらに伸ばしてほしい。また、地域や保護者と今後もさらに連携を深め、子どもたちの成長につなげてほしい。

4　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

（１）　学力の充実を図る。
　○協同学習や放課後学習・どんどんチャレンジ等で学力の一層のレベルアップを図る。
　○応用力や活用力の向上を図る。
（２）　児童との関わりを大切にしながら、一人ひとりの成長を支える。
　○夢や目標を持たせる。（キャリア教育の推進）
　○一人一人の頑張りや成長を認め、意欲や向上心を育てる。
（３）　居心地のよい学級・学校づくりを進める。
　○どの子にも居場所があり、互いに認め合える友だち関係づくりを進める。
　○規範意識を育て、明るく落ち着いた学校づくりを進める。
（４）　地域・保護者との連携を進める。
　○学校支援地域本部事業を活用し、地域と一体となった学校づくりを進める。
　○ノーメディアや家庭学習習慣やお手伝いの推進など、家庭や久米中学校区 PTA 連絡協議会、地域との連携を深め、基本的生活習慣等の推進・定着を図る。

平成29年度　津山市立中正小学校　　学校評価書（別紙）

（ A:目標を上回った　B:ほぼ目標どおり　C:目標を下回った）

学校経営目標等A4:L12			具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）			分析・改善方策	学校関係者評価
					状況	評価	達成状況	評価	総合評		
学力・体力の向上	授業力の向上（特別支援教育の充実）	協同学習	校内で授業公開を一人1回以上、久米ブロックに向けて年間3回以上、津山市内外に向けて、協同学習についての授業公開を1回全学級で行う。児童が友だちと協力し、主体的・対話的で深い学びにつながる力を育む。	専門的な立場の講師を招聘して、校内研修を6回以上行い、若い教師の授業力の向上をめざす。	協同学習の研究を継続している。講師を招聘しての校内研修を5回行い、真剣に伴い新しく転勤してきた職員も共通理解を図り進めている。また、夏期休業中には幅広い研修も行っている。友だちと協力して主体的に学ぶ姿も多く見られるようになってきている。	A	専門的な立場の講師として、協同学習のスーパーバイザーの秋山芳郎氏に年間4回来ていただき、指導・助言や講話をしていただいた。また、校内研究では算数科を中心とし、筑波大学附属小学校の盛山隆雄先生や元副校長の綿水保宏先生に来ていただき師範授業やご講演をいただいた。また、授業公開を一人1回以上実施し、授業力の向上に努めた。	A	A	若い教師が年々増えていく中で、授業力を向上するためには、専門的な先生方を迎えての研究は、教師にとって大変重要であると考えている。予算の獲得が必要不可欠ではあるが、今後も専門的な講師を招聘して、継続的に研究を深めていくことは、今後さらに若返る教員の指導力の向上につながると考えている。	B
	学力の土台づくり	読 書	「読ませたい本30冊」の取組を行う。宿題として毎日音読を取り入れる。	「読書が好き」と答える児童を80%以上にする。	「読書好きの子ども」を増やすため、貸し出し数を調べたり、新しい本を購入して紹介したりするなど、興味付けをしている。「読書が好き」と答える児童は多いが、「よく読んでいる」と答えた児童は68.4%であった。	A	新しい本の購入や図書の紹介をするなど、子どもたちが興味を持てるようにした。個人差はあるものの1月までの1人当たりの平均貸出冊数は約73冊である。本をよく読んでいると答えた児童は76.3%であった。	A		本校の児童は概ね読書好きで、読書をよくしている。しかし、読書時間の個人差も大きいことから、朝自習の時間等、本に触れる時間の確保は今後も大切だと考える。また、興味をもって読むような新書の購入や紹介も重要である。	
		音読・暗唱	音読・暗唱大会を学期に1回年2回実施する。暗唱課題は5回以上行い、職員室や校長室で発表させる。伝統文化にも触れる機会とする。	音読・暗唱大会を学期に1回年2回実施する。暗唱課題は5回以上行う。	音読・暗唱大会を年2回計画した。毎年継続して行うことで、子どもたちもよりよく表現しようとする気持ちや態度も見られるようになってきているまた、中には自主的に暗唱課題に取り組む児童もいる。	A	音読暗唱大会を2回実施できた。また、暗唱課題も出したりした。中には、自主的に暗唱に取り組む児童もいる。毎週の全校朝の会で発表する各学年の生活目標の発表も、学年と自分のめあてを暗唱していくなど、生活にも活かされていると思う。	A		今年度、音読暗唱大会は、学習発表会のある2学期をなくして、3回から2回にした。	
		自主学習	自主学習は85%以上の児童が行うようにする。内容の提示を行うなど指導の工夫を行う。（予習や復習への活用を考える）。	自主学習は85%以上の児童が行うようにする。	家庭学習では、自主学習に取り組んでいる児童が78.9%いる。参考になるノートのコピーを廊下に掲示するなど啓発に努めている。さらにチャレンジ問題や予習にも取り組ませたい。	B	家で宿題や自主勉強に頑張って取り組んでいると答えた児童は、89.5%であった。残りの約10%の児童についてさらに指導をしたい。自主学習に取り組んでいるが、さらに内容の充実も図りたい。	B	B	保護者との連携をさらにしっかりすると共に、個に応じた宿題の出し方について検討したい。また、自主学習は量的なものだけでなく、学習時間や学習内容についてもさらに充実させていきたい。	
	学力の向上	基礎学力の向上	放課後学習（4年～6年）。どんどんチャレンジ：全員自分の学年を終了させる。個別指導に力を入れる。	「勉強がわかる」と答える児童を90%以上とする。	勉強がよく分かると答えた児童が82.1%だった。どんどんチャレンジで全員が黙々と学習する態度が見られる。これまでも個別の支援に力を入れてきたが、今年度はさらに5・6年を中心に取り出し指導も実施している。	B	勉強がよく分かると答えた児童は、89.5%であった。中間期よりも7.4ポイント向上した。特別支援加配による5・6年の取り出し指導を実施し、一斉指導ではなかなか分かりにくかった児童も少人数での個別の指導を行うことにより「わかった！」「できた！」という声が聞こえるようになってきたことも関係していると考える。	B		算数が苦手で、定着しにくい5・6年生の児童を取り出して、個に応じた指導を実施したことは、学習意欲や学力の向上にもつながったと考える。来年度も特別支援加配の配置があれば、是非とも続けていきたい。	
		活用力の向上	到達度テスト等を活用する。	全学年で実施する。	高学年で算数のジャンプ問題を家庭学習に取り入れる等活用力の向上に取り組んでいる。	B	授業の中にも毎時間とはいかないが、取り入れている。今後は、ドンチャレプリントや家庭学習の中にも取り入れることで活用力の向上をめざしたい。	B		応用力の向上を図るために、応用力を付けるために適した問題集の購入も考える必要があるだろう。家庭学習などにも適用したい。	
	体力の向上	持久力・投力・跳力の向上	1学期：外遊び（特にボールを使った遊び）を奨励する。2学期に持久走運動を、3学期になわとび運動を実施する。年間：仲良し遊びを行う。	仲良しの日に、縦割り班遊びをしたり、期間を決めて2学期に持久走、3学期になわとびを実施する。	1学期に外遊びの奨励、2学期に全校で持久走を実施している。年間仲良し遊びを実施している。	B	毎週水曜日を「わくわくタイム」として長休み等に活用している。中でも「なかよしの日」には、縦割り班遊びをしており、仲良く元気に外遊びもできた。3学期には縄跳び運動を計画通り実施した。	B		日常の生活の中で、体力を使った手伝いや運動をする場面が大幅に減少してきている。学校生活の中では、体育だけでなく休憩時間（遊び時間）を利用した体力作りも必要となっている。休憩時間の長い「わくわくタイム」の時間の有効利用を考えていく必要があるのではないかと思う。	
落ち着いたくらし	落ち着いたくらし	時間を守る	時間やトイレのスリッパそろえ等について毎週点検する。また、年間5回児童アンケートをとる。	「時間が守れている」を90%以上とする。	ノーチャイムのため時計を見て5分前行動に努めている。児童アンケートでは、時間を守っていると答えた児童が94.1%全体的にきまりはよく守って行動できている。	A	行間休みで運動場で遊んでいても、高学年を中心にしていつも自分たちで時計をみて教室に戻っている姿が見られる。子どもアンケートからも、90．8%の児童が守れていると答えている。	A	A	休憩時間に運動場から教室へ戻る場面では、大変よく時間を守っていると思う。しかし、次の学習の準備をしたり、トイレに行ったりして、学習の始まりが遅れることもある。教師が始まりの時間を守ることで、さらに意識を高めていきたい。	A
		スリッパそろえ	児童の委員会活動等で点検や呼びかけなどを主体的にさせることで、意欲付けをする。	「守れている」を85%以上とする。	トイレのスリッパを揃えることについては、委員会活動などで毎日点検をしたり、学級目標にしたりして気をつけている。トイレのスリッパをそろえていると答えた児童は89.4%であった。全体的にきまりはよく守って行動できている。	B	トイレのスリッパを揃えることについては、委員会活動などで毎日点検をしたり、学級目標にしたりして気をつけている。守れていると答えた児童は、88.2%であったが、低学年の男子のトイレのスリッパがそろえにくいようである。今後も意識付けをしたい。	B		下駄箱の靴は上く揃うようになった。しかし、特に低学年トイレのスリッパは、なかなか揃いにくい。1人1人が自覚できるように、担任からの声かけや、子ども同士の声かけ、委員会活動での呼びかけ・点検等工夫をしていきたい。	
		あかるいあいさつ	登校時の挨拶を日常的にさせる。保護者や地域と連携を進める。授業の終始、職員室等の入退室時、来客の方へのあいさつは徹底する。	「あいさつができる」と答える児童を85%以上とする。	校門での朝のあいさつや、一斉下校時でのあいさつは全体的にはよくできるが、中には小さな声の児童もいる。地域では、今少しかもしれない。保護者や地域の方の評価を参考にしていきたい。児童アンケートによると84.7%の児童が明るい挨拶ができていると答えている。	B	児童アンケートでは、できていると答えた児童は85.5%であった。中間期とほぼ同レベルであるが、自分から先に進んで挨拶をする児童が少しずつ増えてきていると感じる。	B		教師や大人も明るい挨拶をし、互いに習慣づけていくことで、明るい挨拶ができるようにしたい。明るい挨拶の気持ちのよさを実感させたい。	
		掃　除	日常的に黙って掃除を呼びかけるとともに、しっかり掃除ができていることを称揚することで本気でしようとする態度を育てる。	「掃除ができている」と答える児童を90%以上とする。	たてわり班での掃除は高学年を中心に大変まじめによくできる。94.1%の児童が掃除を本気でしていると答えている。	A	掃除を本気でしていると答えた児童は、96.1%であった。掃除時間の見回りをしても、忘れる児童はほとんどおらず、一生懸命する姿がどの縦割り班からも見られる。とても喜ばしいことだと思う。	A		今後も、掃除の様子をしっかり見回ったり、頑張っている姿をしっかりほめて、小中連携である中学校の「自問清掃」につなげていきたい。	
	楽しい学校（安心・安全）	学級力の向上 みんな仲よく	とする。暗唱の取組等称揚することで実感させる。QU検査の活用。 キャリア教育の推進。「先輩に学ぶ」等（4～6年） 「学校が楽しい」「みんなと仲良くしている」「周りのみんなは優しい」の項目を90%とし、長期欠席者を0人にする。	「学級がまとまっている」と感じる児童を80%以上、「勉強をがんばっている」85%以上、「自分がよくなっている」の項目を90%以上とし、長期欠席者を0人とする。	学習や学校行事、音読暗唱や挿入走などの取組等、学級のまとまりを感じている児童が82.4%。学校が楽しいと感じている児童が84.7%である。個別には子ども同士のトラブルや課題もあるが、その都度話し合い解決をしている。全体的に仲よく過ごすことができている。	A	年間30日以上の長期欠席の児童は、現段階では0名である。また、児童アンケートでは、85.5%の児童が楽しいと感じている。中間期と比較すると、わずかではあるが3.1ポイント向上した。これまでの取組の一定の成果ではないかと考える。しかし、楽しくないと感じている児童が5名いる。	A		楽しくないと感じている5名の児童については、些細な事でも気になったり、自分の意に沿わないと楽しくないと感じてしまうこともあるようだ。他の友だちと協調しながら生活できるように指導をしたり、保護者や関係機関と連携をさらにとりながら、個に応じた対応が必要であると考える。今後も校内で計画的にケース会議を行い指導をしたい。長期欠席者については、現在0名である。	
連携	地域連携	学校公開	参観日や学習発表会、運動会などの学校行事の他に、音読暗唱大会や、年6回の音楽集会等など、保護者や地域に向けた学校公開を計画的に行う。	地域に向けて学校公開を10回以上する。	運動会・学習発表会・音読暗唱大会などの学校行事や学年の音楽集会等の集会や人権参観日等、保護者や地域に向けて広く学校を公開している。また、防災久米とも活用させていただき参加依頼や広報に協力を得ている。	A	年間計画に従って、計画的に実施できた。大きな学校行事や参観日、音読暗唱大会や音楽集会なども子どもたちの成長が感じられると好評であった。	A	A	今後も計画的に実施し、児童の主体性や実施へ向けての企画への参加等も含め、さらに指導の工夫を加えながら充実していきたい。	A
		学校支援地域本部事業	学習支援（生け花、絵手紙、家庭科、総合、夏休み学力補充等）や、環境美化（草取りや花植え）等地域コーディネーターと連携する。	年間計画に沿って計画的に実施する。	学習支援（生活科、書写、家庭科、総合、夏休み学力補充等）、環境美化（草取りや花植え）等、学校支援地域本部の多くの方々のご協力・ご支援を得ながら取組を行っている。	A	総合的な学習でのお茶やお花や情報教育や、社会科の「昔の道具」の学習での学習支援、参観日後の託児等、多種多様な内容で子どもたちへの学習支援・環境美化・学校支援をしていただいた。	A		コーディネーターの方に大変お世話になり、スムーズに実施できた。来年度も年度当初に予め計画を立てておくと、1年間を見通しての実施ができる。今後も地域の方々と一緒に一層の指導の充実を図りたい。	
		児童クラブとの連携	児童クラブへも約1/3の児童が通っていることから児童クラブとの連携を更に深める。交流会や学校・学級便り等で情報交換を行い、指導の共通理解を進める。	学校・学級便り等で学校の様子を知らせたり、直接児童クラブの職員との話し合いをもち、情報交換や共通理解を深める。	児童クラブの移転に伴い、10月からバスでの送迎が始まった。今後も職員の方との連絡会を学期毎に行い、情報交換をしながら共通理解が深まり、児童の指導に生かしている。	B	児童クラブのバスでの送迎も順調に進んでいる。学校・学級便り等での情報交換・情報共有ができたことは、有意義であった。	B		今後も連携を深めていくことで、指導がしやすいことも多いと考える。	
		地域活動への参加	久米地区の体育的・文化祭行事等地域への参加を呼びかける。	地域の文化的行事や体育的行事への参加を呼びかける。	地域の行事に参加を呼びかけている。出し物にも参加するなど、多くの児童が参加できていた。また、12月のミュージックフェスティバルにも参加する児童がいる。	B	1月に、久米地区新春ロードレースが実施された。児童へチラシを配付したり、参加を呼びかけたりしたが、参加者は少なかった。	B		新春ロードレースについては、保護者同伴であることから、家庭からの参加は難しい。また、寒い時期での実施であることから、児童の興味もちにくいようだ。久米地区文化祭や大井東地区の文化祭には、児童の作品を出展している。	
	保護者連携	学習、生活習慣づくり 親子の関わり	PTA三役や各家庭との連携。「あいさつ」「手伝い」「早寝・早起き・朝ごはん」の提励をする。「毎日の手伝い」70%を目指す。学習習慣づくりの取組・「メディアコントロール」「親子読書」等、久米中学校の中間・期末テスト期間前1週間を取り組み期間として、家庭と協力し全校で取り組む。	メディアコントロールとして、久米中学校の中間・期末テスト期間前1週間を期間とし、家庭と協力し全校で年5回取り組む。自主学習も全学年で実施する。	長期休業中を中心に家庭とも連携して手伝いを呼びかけているが、毎日している児童が70%までには到達していないかもしれない。児童アンケートの結果を待ちたい。今後も児童や保護者への啓発にさらに努めたい。 学習習慣の取組については、久米中学校区1中4小のPTAと連携し、久米中学校の中間・期末テスト1週間前から取り組んでいる。	A	年間5回のメディアコントロールは、計画的に実施できた。ここ何年か継続して実施しており、定着しつつある。「早寝・早起き・朝ご飯」については、保護者との連携が欠かせないところである。久米中学校区PTA全体での取組でもあることから、PTAとも連携をしていきたい。	A		計画的に実施できた。今後は、マンネリ化しないような工夫をしたり、メディアとのつきあい方について、児童自身がしっかり考えることができるよう、教師もさらに研修をして指導していきたい。また、本校独自の取組である「3つのつ」「あいさつ・たいせつ・あとしまつ」についても継続をしていきたい。	